

1. 評価報告概要表

作成日 平成22年 3月 3日

【評価実施概要】

事業所番号	1092400017
法人名	株式会社ケア・サポート
事業所名	グループホームオレンジ
所在地	甘楽郡南牧村小沢1050番地4 (電話) 0274-60-5005
評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成22年2月15日

【情報提供票より】(平成22年1月8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成20年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10	常勤 2人, 非常勤 8人, 常勤換算 7.2人	

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 300円/日 ゴミ処理代 50円/日
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	1日 1,000 円		

(4) 利用者の概要(1月8日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	4名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.11歳	最低	73歳	最高	88歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	下仁田厚生病院 ひらやなぎ歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、山に囲まれた風光明媚な環境と南牧川の清流のほとりに、2年前村で最初に開設したグループホームである。開設に当たり、地域の人達の要望を受け説明会を開き、事業所の目的や役割を説明し、介護保険等について疑問がある場合は気軽に意見交換が出来る場所となるよう取り組んできた。入居者は、庭の掃除や草取りなど出来ることや意向に添ったことをしてもらい、鬼の面作りや塗り絵の色が選定できない人には入居者同士が助け合い、安心して仲良く楽しく暮らせるよう支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価結果は、運営推進会議で報告され、玄関に置かれ閲覧されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、職員会議で検討し、その過程で職員から外部の研修参加が希望され、入居者の病状に対する対応方法や入居者が楽しく過ごすための支援のあり方が話し合われるなどして、管理者がまとめた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議は奇数月に開催され、入居者の状況や行事開催状況・外部評価結果が報告されている。新型インフルエンザ対策、水分補給の状況や室内温度調整等について質疑応答があり、区長からカタクリの群生地等村内の見所を紹介して頂き入居者の外出行事地として検討している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>受診等の緊急事項は電話連絡しているが、緊急事項以外で家族に伝達すべき事柄は毎月の利用料請求書に文書を同封し伝えている。また、運営に関する家族の意見、苦情の相談窓口として事業所の担当者及び外部機関の担当窓口を重要事項説明書に記載し契約時家族に説明している。入居者の理美容の利用や外食行事の開催について家族と相談し支援している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>2年前村で最初に開設したグループホームであり、開設に当たり説明会を開催し事業所の目的や役割を地域の人達に説明し意見交換を行い、理解を得られるよう努力を重ねてきた。地域の祭りに祝いの品を届け、近隣の人から野菜等を頂き、灯油等の購入は近くの商店を利用し、民生委員の見学を働きかける等地元の人々との交流促進に努めている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	お互いに助け合い、日々の生活を仲良く楽しく過ごし、自分で出来ることを見つけ、地域の人達との交流を大切にしたい理念を掲げ支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、誕生会等機会ある毎に入居者や職員に理念を伝えている。庭の掃除や草取りなど出来ることや意向に添ったことをしてもらい、鬼の面作りや塗り絵の色が選定が出来ない人には入居者同士が助け合い、安心して仲良く楽しく暮らせるよう理念に沿った支援に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	2年前村で最初に開設したグループホームであり、開設に当たり説明会を開催し事業所の目的や役割を地域の人達に説明し意見交換を行い、理解を得られるよう努力を重ねてきた。地域の祭りに祝いの品を届け、近隣の人から野菜等を頂き、灯油等の購入は近くの商店を利用し、民生委員の見学を働きかける等地元の人々との交流促進に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員会議で検討し、その過程で職員から外部の研修参加が希望され、入居者の病状に対する対応方法や入居者が楽しく過ごすための支援のあり方が話し合われるなどして、管理者がまとめた。前回の外部評価結果は、運営推進会議で報告され、玄関に置かれ閲覧されている。	○	外部評価については改善計画シート等を活用し職員会議に諮るなどして課題の改善に取り組まれるよう期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は奇数月に開催され、入居者の状況や行事開催状況・外部評価結果が報告されている。新型インフルエンザ対策、水分補給の状況や室内温度調整等について質疑応答があり、区長からカタクリの群生地等村内の見所を紹介して頂き入居者の外出行事地として検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	各種申請書類を持参した際に入居者の待機状況把握のために特別養護老人ホームの担当者を紹介して頂き、運営推進会議構成員である区長・区長代理が村役場職員であることから顔見知りとなり気軽に何でも相談できる関係を築いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	受診等の緊急事項は電話連絡しているが、緊急事項以外で家族に伝達すべき事柄は毎月の利用料請求書に文書を同封し伝えている。金銭管理は立替金処理を行い利用料請求書に領収書を添え精算している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関する家族の意見、苦情の相談窓口として事業所の担当者及び外部機関の担当窓口を重要事項説明書に記載し契約時家族に説明している。また、入居者の理美容の利用や外食行事の開催について家族と相談し支援している。なお、今後家族会の開催について検討している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、馴染みの職員による支援を大切に考え系列事業所との異動は極力抑えている。職員採用に当たっては、食事は入居者が最も楽しみとしていることから調理の得意な人あるいは柔軟に対応できる人を採用するなど入居者中心の人材確保を行い、採用時に入居者や家族に紹介している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	開設2年目のため実践力を養成する観点から、外部講師を招き、介護に関する講演と実習を全職員が出席する職員会議で行っている。来年度は職員が希望する外部研修を受講する予定である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	富岡市内にある系列のグループホームと交流会を開催し、特別養護老人ホームと待機者状況や福祉用具購入等の情報交換を行っている。	○	地域の同業者と交流する機会を持ち、研修会や相互訪問等を通じサービスの質の向上に取り組まれるよう期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族が見学を行い、体験入居のまま入居した人もいる。また、入居申し込み時に家庭や利用中のデイサービス等を訪問し、趣味や生活歴の調査を行い円滑な日常生活が送れるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	戦争体験の話聞き、家庭菜園における野菜の栽培管理を教わり、洗濯物の整理をお願いし、インゲンの筋取りや卵の殻むき等調理の下拵えや食事の準備をしてもらうなど、入居者から学んだり支え合う関係を築いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中から食事の好みやカラオケ等の趣味を聞き取り、入居者の好みの本を貸与するなど一人ひとりの意向や希望を大切に支援に取り組んでいる。意思表示の困難な人は家族からの聞き取りと日常生活の観察から思いの把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	業務日誌やケアチェック表を基に毎月開催する職員会議で話し合い、家族の意向を反映した介護計画を作成している。介護計画は家族に説明し署名を頂いている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6カ月前に行ったモニタリングを基に年1回介護計画の見直しを行っている。介護度の変更や身体状態の変化等が毎月開催している職員会議録に記載されているが、介護計画の見直しはされていない。	○	毎月モニタリングを行い現状に即した介護計画を作成されるよう期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携の指定を受け看取り介護の体制を取り、家族が対応困難な通院の送迎を職員が行い、訪問理美容を利用し、本やビデオが好きな入居者に図書館からその人の希望に添った物を借りてくる等柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族が送迎するかかりつけ医の受診に際しては入居者の詳細な身体状態を伝え、協力医の受診は職員が対応し診療結果等は電話連絡を行い、定期受診で緊急性のない診療結果等は利用料請求時に文書で報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「看取りに関する指針」を定め職員会議で話し合い共有している。家族には、医師・看護師体制、看取り介護の実施とその内容、看取り介護は家族の協力体制が必要であること等を説明し理解を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は、職員が居室への入室時は必ず声をかけ、失禁時等には他の入居者に気づかれないよう部屋や浴室に誘導し、外部の人には入居者の固有名詞を出さないよう職員を指導している。記録は見守りをしながら夜勤時に行い、書類は事務室に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	カラオケや塗り絵等の娯楽を強制することなく、得意とする趣味を楽しんでもらい、食事の遅い人や入浴を拒否する人などは無理強いすることなく一人ひとりのペースを大切に支援に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者は力量に応じジャガイモの皮むきやインゲンの筋取りなど調理の下拵えを行い、下膳やテーブル拭きを手伝っている。おはぎなど季節に合わせた行事食や誕生会にはその人の好きな食事を提供している。また、職員は入居者と一緒に食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴日に友人と入浴している人もいる。入浴を拒否する人には強制することなく、順番を変え或いは体重測定をするから等の言葉かけを行い誘導している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日洗濯物干しやたたみを行う人、カーテンの取り付けを手伝う人、庭の掃除や草取りをする人等入居者の力量に応じた役割を担っている。また、図書館から本を借り・ビデオ鑑賞し、毎週「カラオケの日」と「コーラスの日」を設け独唱や合唱を楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望もあり、天気の良い日でも庭の散歩は欠かさず行っている。また、富岡にある系列のグループホームと相互訪問を行い交流している。今後は庭の芝生を利用した食事や喫茶を計画している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	庭の前に南牧川が流れ、無断外出者の危険防止と安全確保のため玄関に鍵をかけている。	○	管理者は、鍵を掛けることの弊害や安全に配慮した支援のあり方等を職員会議等で話し合い、日中は鍵を掛けないケアに取り組まれるよう期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急マニュアルを制定し、避難経路や避難場所、緊急連絡網が整備され、自動通報装置を設置している。年2回のうち1回は、消防署の指導を受け、入居者や近隣の人も参加して、消火避難訓練を行っている。今後は夜間を想定した避難訓練を実施する予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取は食事摂取チェック表に摂取割合を記入し、水分摂取は水分摂取チェック表に摂取量が記録されている。管理栄養師の管理者が、栄養バランスを考慮した献立を作成し、果物をできるだけ提供するように支援している。また、入居者の身体状況等に合わせた粥食や刻み食を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂の天窓から陽光が差し込み、天井の扇風機が回り、廊下との境に温度調整のためのカーテンが取り付けられ、室内の温度計で室温管理がされている。壁には、行事の写真が飾られ、入居者が制作した鬼の面や塗り絵が掛けられている。南向きの居間には冬の暖かな日光が射し込みソファーでは入居者が食後の和やかな一時を過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、整理ケースや使いなれたザックとストックが持ちこまれている。行事の写真が飾られ、新年会の輪投げの景品の写真立てが置かれている。		